

20. 造林地のツル類の防除

1. 試験担当者

北海道支庁造林部造林第二研究室長 林 敬 太 ほか

2. 試験目的

従来造林地の保育のためのツル切りは、下刈終了後3～5年後に林地の状況に応じておこなわれてきたが、近年下刈の省力化対策として塩素系除草剤が使用されるにつれ、その薬剤に対して抵抗性のつよいツル類の急激な繁殖が著しく、これによる造林木の被害が発生しておりその対策がつよく望まれている。しかるに、ツル類の生長、繁殖再生など基本的な生態が明らかにされていないため、適確な防除法が確立されていない。

このため本道におけるツル類の分布と生態を明らかにするとともに、造林木にたいする被害の実態を究明し、適確なツル切り等の時期および薬剤防除等、合理的なツル防除方法を究明する。

3. 昭和45年度の経過とえられた結果

1. ツル類繁茂地におけるツルの分類と造林樹種別被害実態の23の調査から、木本性のツル類の被害分類は、造林木にあたるツルの生長特性と被害の形態から、ヤマブドウのように被害が主に被覆によるものと、ツルウメモドキ、コクワ等のように幹の締めつけによるものとに分類する必要があることが認められた。
2. 下刈終了後の造林地内のツルの生態と造林木にあたる被害の推移との関係を明らかにするため苫小牧営林署管内トドマツ造林地に固定試験地を設け、調査をおこなった。
3. 薬剤によるツルの駆除ならびに切倒による再生、回復力の調査を白老営林署管内カラマツ林で実施した。

4. 昭和46年度の試験計画

1. 造林木(トドマツ、カラマツ)に対する被害実態の把握
2. 下刈終了後の造林地(トドマツ、カラマツ)内のツル類の生態と被害の推移を継続調査する。
3. 薬剤による駆除方法の検討を白老営林署管内カラマツ林で引続きおこなう。
4. ヤマブドウの生態及び薬剤処理時期等を解明するため、ヤマブドウの増殖をおこなう。